

# 29年9月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 9月1日～ 29年9月11日

## 2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
9月分の回答企業数は5社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/9月	10月	11月
仕入動向	国産材製材品	0.0	△ 10.0	△ 30.0
	外材製材品	△ 10.0	10.0	△ 30.0
	構造用集成材	37.5	0.0	△ 25.0
消費動向	国産材製材品	10.0	0.0	△ 20.0
	外材製材品	10.0	0.0	△ 20.0
	構造用集成材	37.5	12.5	△ 12.5
在庫動向	国産材製材品	△ 10.0	△ 20.0	△ 30.0
	外材製材品	△ 10.0	10.0	△ 30.0
	構造用集成材	12.5	△ 12.5	△ 25.0

・プレカット加工用部材の仕入動向は、国産材製材品は9月の横ばいから10月、11月は減少に。外材製材品は9月の減少から10月は増加、11月は再び減少に。構造用集成材は9月の増加から10月は横ばい、11月は減少に。  
・消費動向は、国産、外材製材品とも9月の増加から10月は横ばい、11月は減少に。構造用集成材は9月、10月の増加から11月は減少に。  
・在庫動向は、国産材製材品は3カ月連続減少。外材製材品は9月の減少から10月は増加、11月は再び減少に。構造用集成材は9月の増加から10月、11月は減少に。

### (2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	29/9月	10月	11月
受注	20.0	△ 10.0	△ 20.0
加工	20.0	△ 10.0	△ 20.0
受注残	△ 10.0	△ 20.0	△ 20.0

・プレカット工場の受注・加工動向は9月の増加から10月、11月は減少に。受注残は3カ月連続減少。

## モニターからのコメント

### (加工用部材荷動き)

・バイオマスに原木流れる。チップ材不足か。外材の値上がりの真意は。問題なく集荷・消費できている。適正在庫から減量に向けて調整中。  
・外材製材品、構造用集成材を足して2で割ると、し入れの全体数は変わらないように仕入れる予定。当月は予想より消費増加の見通し。その分、来月の消費が減る可能性もあるが不透明。仕入れに合わせた形で在庫も動くと思われる。但し、全体在庫を減らすように調整しているため、全体的には減となる見通し。

### (受注動向)

・受注・加工・受注残とも全て低水準で推移。  
・受注・加工とも増。そのリバウンドが翌月にくるかどうかが心配。